４０日間の夏休み中に学力を大幅に向上させるためになすべきことは何か

開倫塾
塾長 林　明夫

Ｑ：４０日間の夏休み中に、学力を大幅に向上させることなどできるのですか。できるとしたら、何が一番大切ですか。

Ａ：(林明夫：以下省略)40 日もあれば、小学生から、中学生、高校生、大学生、もっと言えば大学院生まで、学力は大幅に、また、急激に上昇します。必ず上昇します。

ただ、一つだけ条件があります。それは、「自覚」をもって「学習」することです。「自覚」とは、自分の立場をよく知ること、自分の得意分野(もっともっと伸ばすべきところ)と弱点分野(克服すべきところ)をよく知ること、今やるべきことを深く知ることだと私は考えます。

何のために今「学習」するのかを明確にすること、受験生であれば希望校をはっきりさせて何が何でも合格するのだと自分に言い聞かせること、希望校に合格したらそこで何を学びたいのか・何をしたいのかを明確にすること、進学した学校を卒業したら何をしたいのかを明確にすること、社会に出たらどのような仕事や活動がしたいのか・どのような人生を送りたいのかを明確にすること、このようなことを真剣に考え続けながら 40 日間の夏休み中「学習」をし続ければ、皆様の学力は大幅に、また、飛躍的に向上します。

「学習」の成果を出す一番大きな条件は、このような意味での「自覚」です。「自覚」のない人は、どんなに長時間「学習」してもダラダラと机に向かうだけになってしまい、あまり大きな成果は期待できません。

Ｑ：「自覚」をもって「学習」すると、なぜ４０日間でも学力が大幅に上がるのですか。

Ａ：(１)自分の立場や自分のすべきこと、何のために「学習」するのか、その「理由」が明確になればなるほど、1 日の「学習時間」が長くなります。また、例えば 1 時間「学習」しても、「自覚」のある人は「集中力」が格段に増しますので、きめ細かく「理解」したり、「定着」させたり、「応用」力を身に付けたりできるようになります。

「自覚」のある人は、長時間「学習」しても苦になりません。逆に、もっともっと時間が欲しくなり、いくら時間があっても足りないと思うようになります。朝から晩まで、睡眠や生活に必要な時間以外は「学習」するようになります。誰も見ていなくても、人に言われなくても進んで長時間「学習」するのが、「自覚」のある人です。「学習」が楽しくて楽しくて仕方ないからです。

一方、「自覚」をもたない人は「学習」することが苦痛に感じますので、「学習時間」が限りなく短くなります。誰かに見ていてもらわないと「学習」しない・「学習」できないのは、「自覚」がないからです。「自覚」のない人は「学習」が楽しくない、だから「学習」をしない。そのように私は考えます。

(２)「自覚」をもっている人は、「学習の方法」をどんどん工夫するようになります。

開倫塾では「学習の 3 段階理論」という「学習の方法」を考えて、「どのように学習すれば

学力が向上するのか」を具体的に示しています。

「自覚」のある人は、「学習の 3 段階理論」を見るやいなや「そうか、このような学習の仕方もあるのか」と大喜びします。「学習の 3 段階理論」を見て、自分の今までの「学習の方法」を振り返り、今までやってきたことをもっと自信をもって行うようになり、また、「こんなやり方もあるのか」と気づいたことは自分なりに工夫してやり始めるようになります。

このように、「自覚」のある人はどうすれば短い時間にもっと効果的に「学習」ができるかを絶えず考え続け、「学習の仕方を学習」するようになります。

Q：なるほど。この４０日間の夏休み中に「自覚」をもてば「学習時間」が増え、「学習の方法」を工夫するようになる。だから、４０日間でも学力が大幅に向上する。こういうことですか。

A：その通りです。ですから、大切なこの夏休み 40 日間に学力を大幅に向上させるのだと決めたら、自分の立場は何か、何のために「学習」するのか、受験生であるなら希望校の具体名をはつきりさせて何のために進学をするのか、進学した学校で何をするのかを明確にしてくださいね。

ただし、その学校に合格するためだけに「学習」することだけは絶対にやめましょう。受験自体が目的となり、ただ合格すればよいと本気で考えるようになると、合格後は「もぬけの殻」のようになってしまい、遊び呆けてしまうからです。受験は合格するための単なる「手段」に過ぎません。目的は合格した学校で自分のしたい「学習」や「活動」をすることだと私は考えます。

Q：ところで、塾長は「勉強」ということばをあまり使わずに「学習」ということばをよく使うようですが、なぜですか。

A：「勉強」ということばのほうが一般的ですが、私は学力を向上させるためには「学習」ということばのほうがよいと考えるからです。

「学習」という漢字は、「学ぶ」と「習う」の 2 つから成り立っています。

「学ぶ」とは、「ああ、そうなのか」と納得すること・よくわかること・「理解」することを意味すると私は考えます。

「習う」とは、一度「ああ、そうなのか」と「理解」した内容を音読や書き取り、計算・問題などの練習を繰り返し行って正確に身に付けること・「定着」させることだと私は考えます。

「勉強の仕方」を考えるときに大事なのは、「勉強」を「学習」と言い直し、「学習」を「学ぶ」ことと「習う」こととに分けて、それぞれに最もふさわしい「方法」を工夫することだと考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：夏休みには、福澤諭吉著の「学問のすすめ」と「文明論の概略」をお読みになることをお勧めします。人は「なぜ」、また、「何」を「学習」しなければならないのかを真正面から考えています。元気な人は岩波文庫で「原文」を、「原文」はちょっと難しいと思われる人は、いろいろなところから出ている「現代語訳」で、この 2 冊を夏休み中に最後まで読み終えてください。2 冊を読み終え、福澤諭吉の考え方に少しでも興味をもったら、自叙伝の「福翁自伝」を岩波文庫の「原文」か、他の出版社の「現代語訳」で読んでみましょう。福澤諭吉の「学習の仕方」が実感できますよ。

暑い日が続きそうです。お体を大切にお過ごしください。

― 2013 年 7 月 10 日記―